



八笑人第五編
 村田 十五
 下
 大尾

三尾

13
 3094
 15



特
へ13
3094
15

花暦八笑人五編下之卷

江戸

與鳳亭枝成殿作



船の中よりおそろふ四十三四の笑女中
おつねやう 大川端迄も
あつねやう 此局役髪はうさながー
ごめさん 此花山取のまどりき
いやう 衣裳は七袴敷寄屋のうさびらふ
なご 前襟の金
きん 糸は七糸浦を縫はせる帯箱狭子の
おひ あり
おひ 根
おひ ござりのきざりしるま
おひ 枯きらぬ老木の花見物の
おひ あり
おひ 今一人の三十位りなご
おひ あり
おひ あり

あまのめ見うね 尾へ けうーのるきぬけののどもを
見まはさばつちのこ悪意をエとまきる 族とも見え
まむび 今目入 服者まむすれの 四柱山あもごさうり
まはまじつ 視目とおゆるー ひとびとていひのこごさうり
ませう つかね ココへく 尾上ごめ 四族投ありしきさう
見ます 所がらごまを見ても 山家の様か身替りふ
かりきうひの一人もとえませぬ 以後の見せぬを法
おちこ 四柱へ引ますとお表へさうおーまはごさうり

ませう 尾へ 左板ごさうりまはまじつごさうり 堪忍のなる堪
あが堪めんうさるぬ 堪忍なるがかんめんとや歌も
いさうまはまじつ 被者どもへ 難題を中かすしとまは
おちこ 四柱へ引ますとお表へさうり
お中老の 四發めいさうく けいふね ありていのも 同あ
おねうりと思石 冷身シテ 難題とやまふナ 尾へ 左板ご
おちこ けいふね ありていのも 同あ
おねうりと思石 冷身シテ 難題とやまふナ 尾へ 左板ご
おちこ けいふね ありていのも 同あ
おねうりと思石 冷身シテ 難題とやまふナ 尾へ 左板ご



まにこそ一ぢも下に並とま六館へ引直ませり
幸ひ政人に六窓茶出するあるとちふぢりの大さ
る漢子見へくトありけまぶハット出する以
茶の狸大ぎん玉を引ぢりく身に六つを巻せ着
あぢらぢぞ四月せぢりまはり尾へりぢり其方
八人が酒宴の政人相とせ中ける故が身のま
るまを焼ひとちりくやとものあぢら早速るると
館へ引ん政の者六は者どもが酒宴の相とせま

出はくとさくくうあ蟻の這ひ知る所もま旅用公
まぢく守りてよろうあるまぬのま先以船へ一丸
まぢくませう入らるて家老「ヨリヤイ中を
尾上どのが格別の慈悲只今以酒お肴もとせ
やとふ難ひ頂戴のむ尾籠の振まひあるとま
後くまの月捨るまいぞ
橋のくみむ柄敷と八人のその内にも左活の別を顔
左活のりおり人達やアゆと思入り是刺血の雨が降

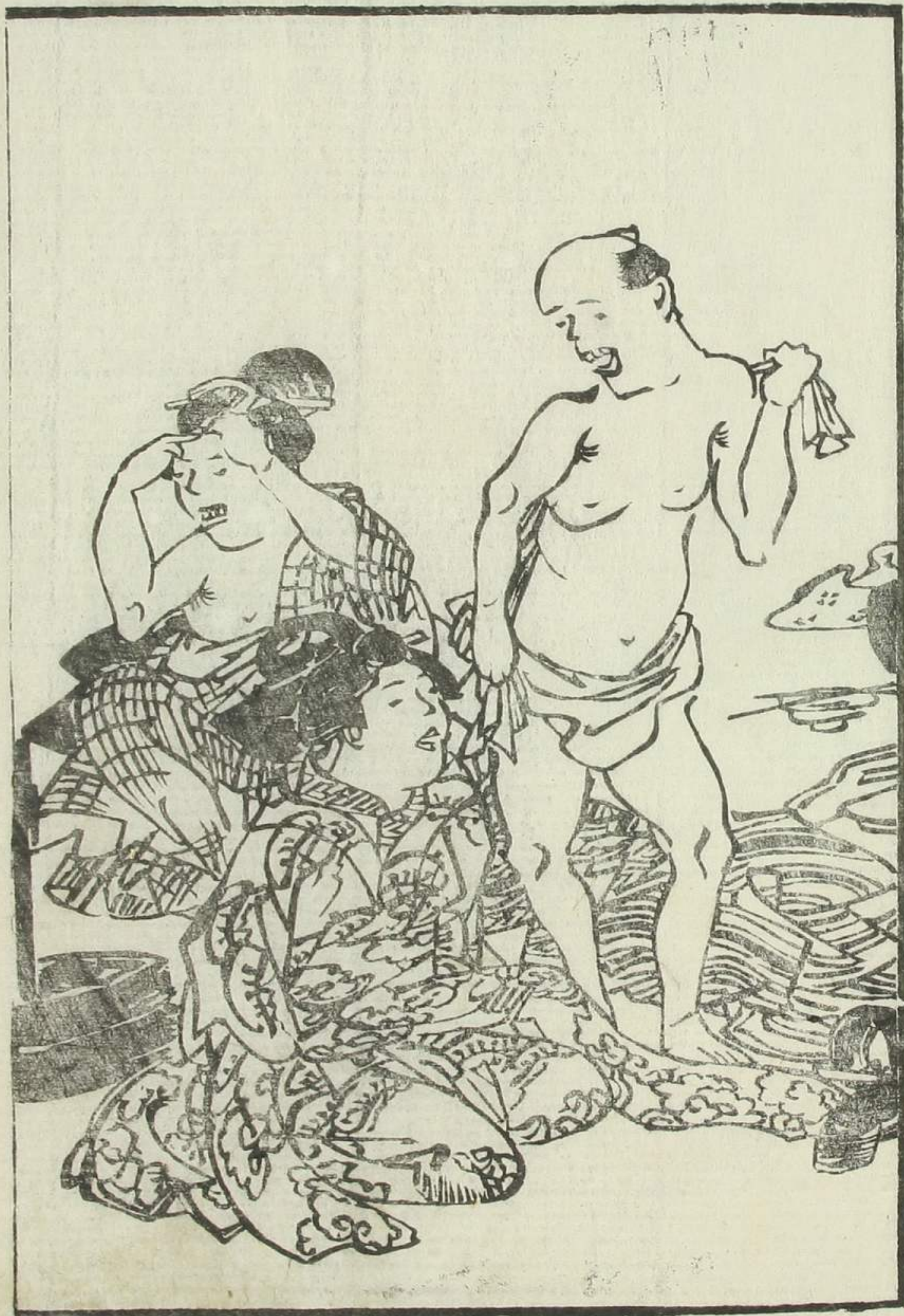
生後とくまはは程さんで出さるんごうごう
 びりくまはは今見まはけ人の内屋へ出てある
 夫張妻よ左様して見まはけ船の内の人達
 一穴の程を一林喰うこのごうごう
 おめいハどうのふ次でおめいを驚かすこのごう
 何うぞんごませんが暇日の夕方羽織を着て
 お方が二人お出まはせまはて手又お用が
 達のり通つめとあらやうと頼を二紙あつて

ぐうごうごう一月の持が一晩おあつてり
 何もぞんごませんが私程より檢つて見
 うと安心のうませんくら懐の家がゆ一
 うりゆりませんくら先程より檢つて見
 まづとぞんごませんが
 来て居て又船の内くらまづと喰つて
 らねえ 幸ハサウくあつてり
 合点がらぬ四張さぬの四張あつてり

幾^いの^の春^{はる}ま^まわ^わと^とま^まめ^めア^ア又^{また}繩^{じゆん}目^めど^どめ^めなる^{なる}よう^{よう}ら^らう^う
 左^{ひだり}席^{せき}へ^へあ^あご^ごが^がわ^わ入^い一^{いち}杯^{はい}や^やま^まじ^じり^りト^ト熱^{あつ}い^いと^との^のア^アの^の酒^{さけ}を^を
 政^{せい}武^ぶさん^{さん}さ^さき^きう^う 政^{せい}武^ぶハ^ハイ^イト^ト一^{いち}ツ^ツ 左^{ひだり}席^{せき}さん^{さん}が^が酒^{さけ}を^を
 言^いひ^ひさ^さら^らう^うけ^けい^いど^どよ^よの^のや^やと^と思^{おも}ひ^ひさ^さう^うこ^こん^んの^の酒^{さけ}を^を
 お^おう^うア^ア生^{なま}ま^まて^てう^う今^{いま}ま^まを^を吞^のど^どり^りア^アを^を 衆^{しゆ}かん^{かん}う^うら^ら
 早^{はや}く^くさ^さう^うな^なま^ま 政^{せい}武^ぶハ^ハま^まど^どア^ア肴^{さかな}も^もよ^よら^らう^うそ^その^の油^{あぶら}
 揚^{あげ}を^をひ^ひら^らか^かり^りて^て見^みや^やウ^ウウ^ウメ^メい^いく^くと^とら^らア^ア海^{あか}老^らさん^{さん}ど^どよ^よ
 猪^{いの}卵^{たまご}を^を入^いれ^れて^てき^きら^らげ^げ 蓮^{れん}根^{こん}牛^{ぎゆう}房^{ぼう}を^を交^まじ^じの^のを^を揚^{あげ}

の^のど^どろ^ろも^もう^うま^まい^いく^く 政^{せい}武^ぶハ^ハま^まど^どア^アそ^そら^らの^の野^の男^{おとこ}も^も
 喰^くつ^つる^るぞ^ぞら^らう^う 左^{ひだり}席^{せき}へ^へい^いく^くと^とら^らも^も味^{あじ}い^いの^のか^かん^んの^のと^とり^り
 ど^どろ^ろど^どろ^ろや^やわ^わん^ん毛^けハ^ハ吉^{きち}原^{げん}の^の土^どの^の向^{むか}の^の裏^{うら}の^の中^{なか}を^を
 所^{ところ}の^の蕎^{そば}麦^{あわ}屋^やで^で賣^うる^る麵^{めん}を^をど^どと^とり^りの^のと^とを^を温^う純^{じゆん}で^で
 お^おの^のど^どろ^ろう^う此^{こゝ}で^で麵^{めん}を^を喰^くひ^ひの^の中^{なか}を^をど^どろ^ろう^うも^もう^うく^く 蕎^{そば}麦^{あわ}ハ^ハ
 た^たり^り物^{もの}の^のか^かど^どろ^ろう^う三^{さん}葉^{えふ}で^でま^まり^り蕎^{そば}麦^{あわ}で^でま^まり^りも^もん^んど^どろ^ろう^う
 山^{やま}葵^{あひま}が^がま^まの^のて^てわ^わん^んが^が 左^{ひだり}席^{せき}へ^へ毛^けり^りや^や蕎^{そば}麦^{あわ}よ^よと^とら^らう^うア^ア
 そ^そん^んな^なけ^け方^{かた}の^の麵^{めん}向^{むか}と^と留^{とど}山^{やま}さ^さぬ^ぬの^の奥^{おく}女^{おんな}中^{ちゆう}が^が皮^{かわ}を^をお^おわ^わら^ら





連中の
 名も知らぬ
 たぬき汁
 茶をん
 粗言
 桃栗山人

らうし折へゆくと取はな〜とまじ山家一人ものところば縄
目の船あり人達やう折へりこのご 取ハイこあちが
つまふ付てかこけ糸く神田川の船心取頭へこあ
ちが友達サあちの取へ来て少〜こけがある多け取を
少とのる例へうけとま〜と頼を先〜こカ倫
お釋受もさる〜酒も吞せらるうけけ糸くしの取
まを待て居ると言ひかをさる〜とまゆ取例めつけと居
中〜 左落へサウカあらの取ハ畠山さぬの取取さぬの

納涼取ど〜のひびぶささうり 取ハ大遠のせんく
ちまサ 舞へん〜ちま〜と六狸でら〜らて流〜工
流〜らんどう知のやせんが暫くまると取を例へ
付て別れ細取が来て教細サ 眼〜とま〜も買女
中ハ居〜こらう 取ハとま〜も大遠のサ 左落へ〜とま〜
者がま〜めて居〜 取ハ左公の〜らあけま
色の向の丸顔の人が大將よ〜と十返舎ヨとま〜
十子と実辨とらゆ人り 取友〜 為永とらゆ人も

居るけまに町の人達が大勢女形のうらをうけ七
あつもありやうの衣装をぬの丸深でわんたもあり
中へ一そへておいら達のるをうんとぞと増えもしう
秘友へ一かへ新でぶぶぶぶりやせん ぬへへうんと言ひのま 秘友
秘友へお茶さん方の茶で言ひ勝の 眼へちの遠慮ハ
雲海はぶ有新ぬ言ひねえ 出目へとんぶ新へ雲海はが
秘友へ此願る人グのふあやア世の中たとんちまも
清山ありゆんぶ 金玉男の正新があはれと目あやそそ人

奥女中の梅で出るとは嘘が男ぶぶぶぶぶはまも
ゆんぶト言ひ中へ ぬへへ水さんとやうも若者のせうも
まへへの先祖壺所縁さぬの四墓の首へふあしきり
人もまげの言ひ梅ぶぶぶ鏡山とま子壺と梅の由まも
交つるやうゆの長文句ゆああぶぶぶぶぶぶぶ
先がとらへくともちておまぶぶぶを遠くゆゆゆの危い
藝ぶらけと言ひ中へ 純へまぶぶ新の若う流とお
くぬまも ぬまへさん谷喜原人達サ のうへあつるも

えいごと言ひ中より 聖まこと十と母は多く 益えき亭ていより人ひとの辨わかれ
罷ひ亭ていが八はち笑わら人ひとハ笑わらみ滑な稽げいふらふらとて一ひと筆ひつ毫ごが
まを真ま似ねてよく書かやしこ中ちゆうひるる遠えん行ぎやうせうとて
教しゆ元げんが上じやうの卷まきをより彫ちゆうりては方はうがねんふ笑わら山の
聖まことの男おとこに書かきとてのんごさうとてえより作しやく者しやがえん
ちきごうら 弟あに後ごふらひのひらつとまのりサ 左ひだりへは
極きよくり何なにも喜よろこぶも道みち眼まなこもさうさうのものをさぞこん
りぬらひせしころう 色いろくら直ただぬ運うん赤あか糸いと汗あせば人ひとをまらぬ

まうら 幸さいわいへとまもりのぐ先まへも大おほ勢せきがまのてあるくら宣せん徳とくの
ぶらうのちやちやあつとねんく一ひと先まへ端はなりやせう 春はるとりまう
周しゆう六りく何なにもどつと度たと程ほどのりもまうの思おもへば悔くし
笑わらみの喜よろこぶ意いのりまもさうとてちやちやねんおがてけら
うと戯たわぶ後ご者しやども 眼まなこへらんまう力ちから身みをまん今いま流なが石いしの形かたち
者しや達たちがお探たずひて書かき狂くるまごのりまを人ひとのちとちとが
及およぶらうご 産うへあつてまうのりまを人ひとのちとちとが
見みゆる器うつりて極きよくなむのりまを人ひとのちとちとが

戯ケ物キ者のノ兎ウのヒらラの古程コ

書シひラげラるまん玉の春

斯ク亦マ真マトク船フネの浅きうらりる柳橋ヤシ香カやいらる

とよまらる梅川ウメの花家ハナにどもあける

花曆八笑人五編下之巻了

